

学校法人 福岡歯科学園 平成20年度事業計画

本学園は建学の精神に則り、学生のため真に実効のある教育を行い、高度の専門的能力と厳しい職業的倫理観、豊かな人間性を備えた有能な歯科医師、歯科衛生士、介護福祉士を養成するため、平成16年に「福岡歯科学園の中期構想」を定め、その実現に向けて様々な改革に取り組んできた。この中期構想の内、平成20年度の課題と考えられる項目について、具体的に検討・評価し、意義あるものは、その実現を早急に進める必要がある。

大学における取り組みについては、平成18年度に認証評価機関から高い評価を得ることができた。平成19年度には短期大学が認証評価を、医科歯科総合病院が機能評価を受け、それぞれに適正な評価が待たれるところであるが、本学はこれらの第三者評価を踏まえ口腔医学、口腔保健衛生学及び介護福祉学におけるフロントランナーとして、社会の期待に応えていかなければならない。

社会は今後、少子化の進行による18歳人口の減少、超高齢社会への突入、グローバル化進展に伴う「知識基盤社会」の本格的到来、持続可能な社会の構築に向けた教育理念の重要性の増大など、これまで以上に変化の激しい時代となることが予想されており、全教職員が一丸となって、未来の明るい夢を求めて、予想される困難を克服しなければならない。

本学園としては、引き続き健全な財政運営を行い、長期的な展望の下に経営の安定を図りつつ、教育・研究・診療の一層の活性化を進めるものとし、平成20年度の実業計画を次のとおり定める。

記

1. 口腔医学の学問体系を確立し、社会、学界、医療界の理解、協力を得るよう努力する。摂食、嚥下、消化、呼吸、発音、味覚と多様な機能を有する口腔という臓器の疾患の予防、治療を担当する専門分野として口腔医学（口腔科）を確立することは、新時代の医療、歯科医療の将来像を考える上で、大変基本的なことである。
2. 歯科医師国家試験の上位定着を目指すとともに、歯科医師需給、入学定員に関する問題については、文部科学省、厚生労働省、私立歯科大学協会などと慎重に対応する。
3. 教育の面では、実習重視型教育、チュートリアル教育及び共用試験対策の充実に努め、学生が意欲をもって勉学するよう、教育カリキュラムの改変を行う。FDの充実に努め、併せて、特色GP等の獲得に努力する。
4. 研究の活性化、大学院のカリキュラムの改善等に努め、学術フロンティア推進事業の継続及びグローバルCOEの獲得を目指す。また、教育研究経費及び教員の重点配分を行い、科学研究費等の外部資金の獲得に努める。

- 5 . 国際交流については、姉妹校との学生・教員の交流及び共同研究を推進するとともに、留学生の受け入れに努める。また、アメリカ合衆国の大学との姉妹大学協定締結を目指す。
- 6 . 医科歯科総合病院は、その理念と基本方針に則り、総合医療センターとして拡充を目指す。また、病院情報システムを充実し、患者増を図るとともに、学生の診療参加型臨床実習及び歯科医師臨床研修を充実させる。
- 7 . 学生募集のための組織的な活動を行い、優秀な学生の確保に努める。特に短期大学保健福祉学科は入学定員確保に努める。
- 8 . 短期大学歯科衛生学科は、歯科衛生士試験の 100%合格を目指すとともに、専攻科は、大学評価・学位授与機構の認定を得て、口腔保健学士の学位取得を目指す。
口腔介護教育の取り組みを発展させ、現代 G P 等の獲得に努力する。
- 9 . 介護老人保健施設、介護老人福祉施設は地域の保健・福祉に貢献するとともに、教育・研究の場として一層の充実を図る。また、介護職員等の処遇改善に努める。
- 10 . 公開講座及びボランティア活動並びに西部地区五大学連携懇話会及び地下鉄七隈線沿線三大学連絡協議会による地域貢献を推進する。また、本学園の活動について、社会からの理解・信頼を得るため、学内情報を積極的に発信する。
- 11 . 人事考課制度を活用して、処遇の適正化を図るとともに、明るく楽しい職場環境をつくり、教職員がその職務を全うし、学園の活性化に寄与することを目指す。
職員の資質向上のため、研修会等への積極的派遣を推進するなど S D の充実に努める。
また、事務の効率化、迅速化を図るため、事務システムの見直しを行う。
- 12 . 教育・研究・診療の施設・設備の更新を行うとともに、建物の耐震性の確保と老朽化対策の観点から本館・病院棟の改築を検討する。
- 13 . 予算の効果的な編成を行い、経理の適正化に努める。また、不要不急の支出は厳しく抑制し、事業収入・資産運用収入の増収及び外部資金の獲得に努める。